

大聖
歡喜天

宝珠經起刻圖
下

八
2763
3



門波
1808
3-3

門八
2763
3

大聖 歡喜天 靈驗經和訓圖會卷之下

洛東 春屋織月齋棟翁謹述

附録

十一面觀世音菩薩隨願即得陀羅尼經

夫觀世音とつゝの宙有現世と守護しつゝの菩薩
ふして既ふ以て虚空藏菩薩の天上虚空ふ昇り蔵
る処の精神精魂と守護の靈尊あて地藏菩薩の六
道能化とつゝ現世未來とのふ地獄餓鬼畜生修羅
人鬼天道ふ迷ふ衆生と善道善心と能化し殊る地



星天口川...

より生出る処の万物の父母大射して人口勿論州
木禽獸虫魚に至る迄有情有情共一産出守護
有て人々者者の現世の因之断く呼吸と失ふとれハ
魂ハ天小故一過去と成て虚空藏菩薩のつづり地
小帰王葬す埋めく未末と地蔵菩薩の預り觀世
音ハ現在と守り今日唯今眼前と救ひ守りく処の
靈尊なり此觀世音三十三射小分身まじり億万の
衆士と守りく此中おも十二面觀世音菩薩ハ殊一
即的小利益應驗の勝まじり故小金毘羅大推現ハ
始り天満大自在威徳天神大聖歡喜天尊外御本地

佛の守らせりく度收拳すく小違りく別く歡喜
天と仰ぎ奉りく男天と崇めりく即りく大自在天
て女天と十二面觀世音兩尊と崇め奉りく衆生と
つハ死して天小生く或ハ冥府小生と天より没して畜
趣小往と餓鬼小生と此小死く彼小生と衆多の生死と
感ずるがゆへ衆生とつハなり願ふ処小隨て即り
成就して得りくめりく処の陀羅尼經とつハ此陀羅尼と
つハ天竺の詞として我邦とつハ惣持とつハ意と惣と
惣と撰る持ハ任也持つ親尊一代の説法の義理奥儀
と悉く惣撰任持するゆへ小法の如く信心を起して此

聖三和言區會卷一

陀羅尼經と唱ふまが无量无边の煩惱惡業ねよひ世
間の災難障礙などを悉く拂ひ除き種々の功德と備へ
たるが如く義陀羅尼咒陀羅尼といふ。經といふ常し
て經ふ怠慢なく誦するといふ

如是我聞一時佛在補陀落山為衆說法尔
時觀世音菩薩白佛言我有神咒若有衆生有
受持者除却一切病患憂苦消除一切惡業煩
惱令身口意業比自令清淨

是の如く我聞く一時佛といふ釋尊の中天竺の補陀落
山に在りし時衆のまふ法を説きし尔時觀世音菩薩と
まかり出づ佛に白ふして言ふ我に神咒あり若し
衆生有る受持つ者あらば一切の病の患ひ難病長の
煩ひ憂へ苦しみと除き却て一切の惡業煩惱も旭
の雪のごとく消し除く身より出づる所の惡業將口を以て
人と損い人を怒りめ鬪諍し及び唇舌は是禍の門
舌唇は是禍の根といふ所の惡業も皆清淨ふおほひ
○神咒といふの神は不測の義あり凡夫の知恵を以て
の中測し難し不思議の支業といふ咒といふの古へ

聖天和利言區會卷下

三

世間せけんふ禁呪まじまじのまじりの法ほうとくくきく如律にかり令まひなごころこと入いり変まへりまへ種々さまざま不思議ふしぎふ災難さいなんと除のぞくことととりん

心中しんちゆう百ひゃく千せん萬まん億いふ等とう事じ無な不ふ成就じゆう我われ此こ神呪しんじゆ有う

大神おほしん驗げん一切いっけ諸佛しよぶつ讚嘆さんたん護念ごねん我われ於を過こ去しよ無量劫むりやうけつ

前まへ受持じゆぢ此こ咒じゆ見み十方じふぱふ佛ぶつ證じゆ無生法むじゆふほう忍にん復得ふくとく慈悲じひ

喜捨きしよ平等びんらう法門ほうもん令まひ一切いっけ有情じゆうじやう安立あんりつ於を無上むじやう道だう救諸きうしよ

險難けんなん令得安穩まひにやすん

心こころの中なか百ひゃく千せん萬まん億いふ等とうの願ねんふこと成就じゆうじゆ見みることととりん事こと

我われ此こ神呪しんじゆの神變しんぺん不測ふそくの靈驗りやうげんらら一切いっけ諸佛しよぶつと讚歎さんたん

ト護念ごねん一いっ奉ほうままるる我われ過こ去しよ無量むりやう劫けつ却かへふふ於を前まへ人ひとで

此こ咒じゆと受持じゆぢららるる十じゆ方ぱうの諸佛しよぶつと見み生法じゆほう忍にんと證じゆすす此こ

生法じゆほう忍にんととりん大だい切けつの義ぎとといいははるるとと理り非道ひだうの義ぎ

と人ひとのの掛かとと非義ひぎ強情きやうじやうの責せき苦くふ遭あふふもも免ま毛ももも世よ

成なり陀たらら人ひととと怨をんままらら唯ただ一いっ緒じゆもも前生ぜんじゆの惡あく因いんふ依よりり現世げんじよ

斯かくののどどろろ惡果あくくわ惡業あくごうと受うけけららるるとと自若じじやくととるる支し徃じやう古こ

の日ひ親しん上人じゆんじゆんののどど足利あしがり將軍しやうじゆん家のけ妙法めうほう宗しゆ弘くわう通つうとと深ふかくく

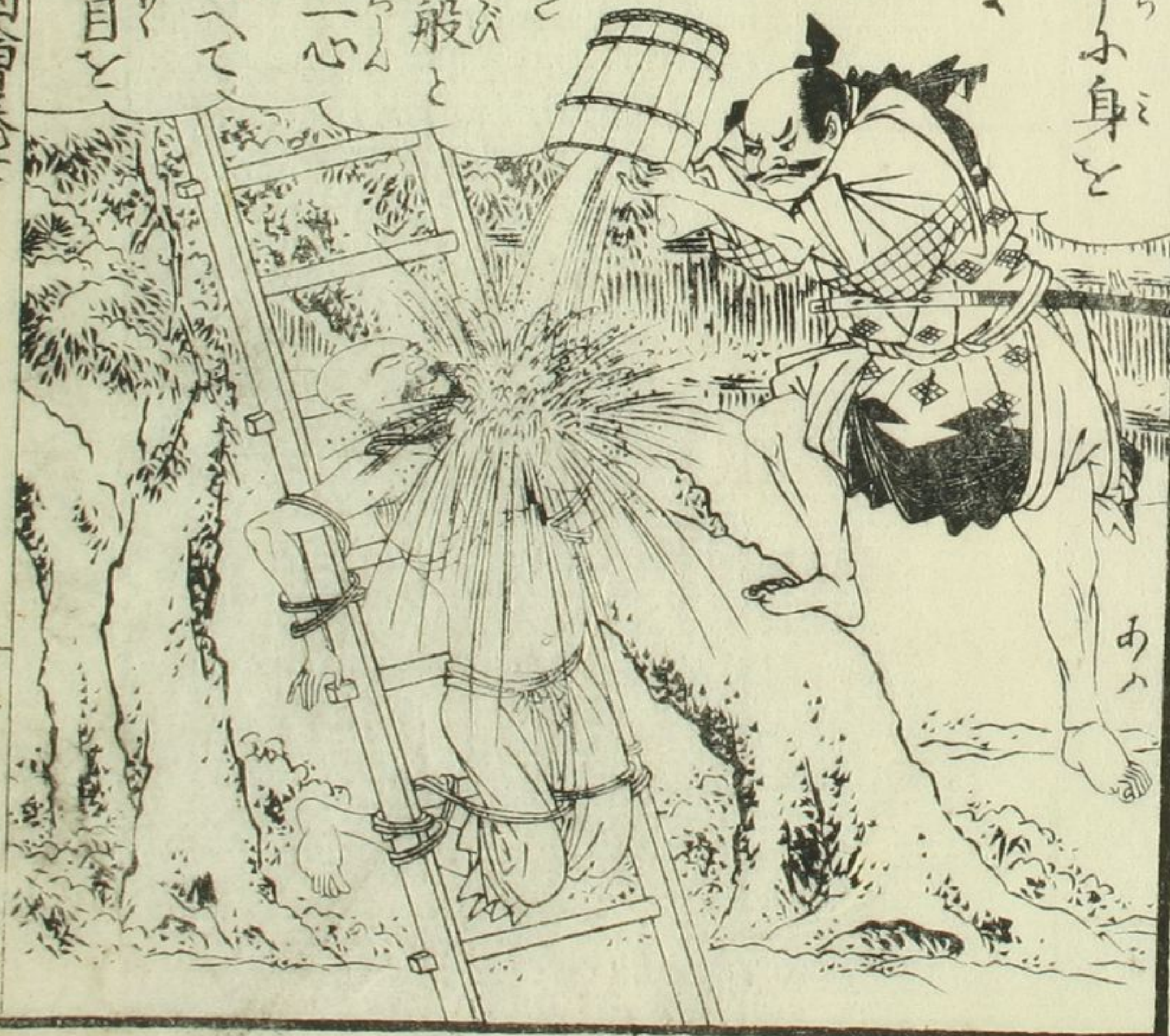
嫉しやくふ依よりり上人じゆんじゆんのの偏へんふ法華ほうか經きやうの佛意ぶつじと守まもつつ身みとと

赤裸せくらくとと左右さうじゆの腕うでと捧ほう杭かうふ縛さくとと付つららしし焚火ふんかとと燒やくく

熱火ふかりたる鉄と両液
 の下、當らるる苦痛た
 へが死非義と法法の責苦
 も唯南無妙法蓮華經
 と題目と一心不乱唱へ他
 念なく又寒夜赤裸と
 られ樹木に縛り繋ぐる
 終夜の呵責も遭ても同く
 両眼と閉く命と天小委絲
 生死と神佛も任じ悲し



ととも口は雪の中身と
 赤裸と階子
 縛り附られ井
 水を汲上げて飲さ
 うく夏元と十四
 五度迫り覚へぬ
 まじも其後ハ哉般と
 つことを知らば唯一心
 不乱と題目と唱へて
 他念なく或ハ題目と



唱へ宗門弘通ふ及ぶを嫉まはく舌頭と剪り又の
竹鎗と以て陰蓋と突刺し將浴室の中へ於て熱湯
の責苦お惱まへ又法力を妬んで播磨東條左門
乃館に於ての劔難など都て小難四ヶ度大難數と知
らばと刺し焼鍋を以て天窓に被りし肉爛を集付
て放まはれ其終年月と累糸うへ世上の鍋被り上
人と永劫未代に至つても天下の衆民其法難と憐
奉り歎れ其法徳と抑む宗め奉りまて性古
天竺に於て何とら上人と国王の嫉む甚しく大釜
に熱湯と湛し其中へ浴しやらねども上人の安然とし

て性を寂る唯一心の佛経を誦し寸毛根を若
くまば暫時蓋をくくいつく定めて爛を焦死せし
なると心見よ蓋を取て見ろ小其まき泰然と
て青蓮華の臺に座して合掌の手を昇天し
といふ支あり是即ち法華經に我身命を愛すは
但て上道に惜むといふ經文の佛意よかあると上
法忍といふ如何躰の至理非道ありとも法の爲に
義の爲に身命を愛すると法を保つ人共義者
とも烈士ともいふ免毛の皮を我と忘る怒り腹立て
一朝の怒りも身と忘る國家と亡む愁親よ及ぶが

聖人如月會集示

二、

愚の甚しき至りたり慎まざるべからざる。上人と
ハ秋氏要覽云曰く内ハ智徳有て外ハ勝まる行
ハ有る吾不行届く過を知つて必らば改むて人の
上ハつらぐゆへに上人と教ふと又又慈のつらぐ悲
ハ多し嫉まば喜捨とつれ人の善業と喜び抱へ
たすけ悪業なる者と一旦捨て懲りぬ善道は誘
ハ救ひうみの法門曰く一切の有情とて人のつらふ及む
禽獸虫魚ハ至る迄おろそこと動も這も飛び翔り
自在ハゆくり知の大なり小なり魄情のつらふものありて
上もゆる清浄安樂の国ハ於て安く立ぬめりふらう

一天尊信者の家一夜盗賊の忍び入て衣服黄白な
と盗取歸らんとすふ出さ道と忘る夜明け
とハ主人捕へて偷する品と取返し理解と説きうら
輔けくし信心堅固の家ハ盗人のとすく竊ハ同
ろと有るつれも忽ち方角を失ひ心蒙くつれと歸る
道と失ふとつれ又或信者の偷賊の忍び込主人と
捕へ縛る害見と為しつれ主の天尊の咒と一
心ハ口の中あく誦しつれ忽ち盗賊の持居る佩カ
の切先を我し吾掌めて己とが狗ハ中て自殺し及ひ
つれつれ往古より傳へ聞く十一面觀世音并ひ天

聖天中州國會集

尊と無二の信者の家へ雷がらるるもつゝ夏々横難
つゝ夏々又婦人音より難産ある事なく斯の
ごとく諸の險難と救ひ安く穏なる夏々たぐひなく

若毎日誦一百八遍萬病消滅壽命長遠常
為十方諸佛護念財寶衣食令無所乏獲得衆
人恭敬愛念不復更為一切災橫鬼蛇刀杖毒
業咒咀怨賊水火之所能害遠離怖畏獲得
安穩臨命終時見十方佛往生極樂不墮惡趣

若し是ふ信心無二の衆に有る毎日懈怠なく此神呪
と二百八遍誦して信心する者れば一切諸病とり煩
くもつゝつゝ平生小壯健ありて醫薬を用ふこと
つゝ夏々若し難病も長煩ひして苦く悩むこと
つゝと吾神呪と母二遍仰信心して誦するのれば
即今小平愈なりしめ表すも八九旬小及べども手足壯
健めて高足駄めて遠く小性來し細字と認むる眼鏡
と用ひば記憶遣ふ鍼灸と用ひていふ夏々耳々々
眼明らるる壽命永く常ふ十方の諸佛小護念すれば
黄白賤寶の融通自在ありて差支ゆつゝ人事なく

四季ふ應じて衣装なきふをれ夏なるとり衆人の吾と
茶しく敷ひ又愛し念ひ慕ふ夏と護得しとて更
わびとつて心変する夏なく一切の災難とて宛の難或の
悪魔蛇蝎も毒虫の患なく刀杖の難しつて刃
難まひ刀難とて杖なく撃きて死ふ金瘡又の疲
附らねるとつての憂へなく人の妬ふ因り毒薬も
悔むとつてをらつとも幸いふ免と或の嫉ふ依り呪
咀まらぬ山賊海賊夜盗なるとの憂ひ其外水難火災
の悲も其身ふ来るの因縁時節も過るるとつとも
忽ちよ道なき吾れ仇見んと數日目論とてふ其座

逼るとつてつとも程よく怖を畏るるとの悲も辛
労も遠く難も却て安く穏なる時節と護得し
て命數足ると命終の時ふ臨むると十方の佛見
つと極樂往生數ひなく地獄餓鬼畜生道の惡報り
隨ふとつて夏更ふも怒り信心怠り慢る夏あは
るるるのなり。京都中立賣邊小佐藤屋何某
らつとる者天和年中二十二夜あつて頓死しつとて親
類會集り歎の悲めども其甲斐なりつとて一日一夜
と起て禱りて語つと曰く我冥土ふ赴てて忽ち
卍堂ふ至るふ氣高き官女の来りつとて你と

いまこそ是へ来べき者よれ也が今你ふ八十三歳の壽命
と与へべし 爾等お帰りぬがいつく 十面大士と信じ
念じて怠るべしと示し 今もふ喜びて問く曰く
宦女の何方の御方お渡らせり哉と宦女の曰く你の
いまだ知りばや吾の即ち日頃信ずる処の十二面大
士の侍女なり 你年来大士と信ずるが思ふ今度你の
壽命と延し 今も有る即ち失りぬ 諸人一同ふ
として有難みもふ 歡喜の袂と示し 今も諸人一同ふ
驚歎し 南無十二面觀世音菩薩と唱へ 歡びあへ
る 此始末諸方お聞傳えて 洛東六波羅密寺より

泰詣ふ及び佐渡川果も弥信心ふ 幾限り母年正
月二日三日七月八九日法會の初め雜費と引受て毎且
の日泰怠り 今も九夫の淺間敷る八十三歳の靈
告と打忘る百歳までも 殆んとありひく 有るが八十
三歳の七月例のどく大法會ふ何らまことなり 世話して
在るが或講中の御老人も 迎つと侍るが 悔く心
細くや 覺るべし 今も八十八も 餘る空蟬の
荒く成るが 猶惜るや 有けん喜りぬ 氣色よく 有るが
果して其年の喜正念愷ふ 臨終往生のり 今もや又
の延寶年中大坂の街とや 信者のり 今も



重く病て百療効なかりし
 け思ふ當年十四歳なる女
 の有りたるが天性至孝ありて
 むも正直柔和なり素来河
 及葛井寺岡琳寺の觀世音
 と信し母の病氣の時も偏
 お葛井寺の本尊お祈り願
 へり今般母の病と平愈な
 しめ壽命を延させ吾天寿と
 縮めんと熟ふ祈願し若し

又定業必死の病なりども偏お菩薩の大悲神力を以て
 我命と取て母の寿と延替てとびうへと丹誠と抽んば
 誓ひなむと誠お大士童女が孝心の祈念と納受なり
 ろん幾程なく母の病の本快なりきば孝女の喜びて
 即ち正月十八日いまご餘寒甚しし指と隨し唐僧も
 裂く烈しき風お赤裸くしてと河加葛井寺へ
 参りて諸人怪しきと意趣を尋らふ上件の子細
 と語りしに聞人感涙と拭い身を負なす人の女にて
 左程眉目美しきと人其孝心の切なるを感
 じ思ひもよめる今橋某の真家富養女お貫りれ思ひ

大尊井寺

世

のいりぬる青雲ふ及び〜と誠ふ此知女大悲十一面尊の
内證ふ能うあふ四へ況んや裸うて幼年の五里の往帰
と外見も耻ぼるう〜と剛琳寺へ奉詣の孝心取行
感ふ〜夫人の病苦甚〜ん時或は横難〜遭〜
時ハ心中ハ佛神ハ祈誓〜と此病苦と痊〜めり
何と供養〜奉〜と此災難と免〜めり
度三十三所と巡禮〜と四州と何度巡拜〜と伊
勢両宮又ハ讚州金毘羅宮へ奉〜と叶ハ
ぬ時の神〜ん〜と病苦或ハ災難ハ遍〜
時〜の謔言唇〜出傍題のたま〜の歴言傷

と吾人〜と心得〜と神佛と傷り謀〜り其病苦
も速ハ平愈〜其當難の子細〜除〜後ハ再ハ
其更〜思ハ出〜或ハ憶憶ハ出〜と
〜當年ハ勝手悪〜末年詣〜此更濟〜
〜我娘と縁ハ切〜後我子ハ家督と讓〜
後入道〜と後〜と終〜願と果〜其内〜
死〜悔〜切〜今時ハ人々風習〜
女の時刻と終〜母の病奉愈〜即日奉詣〜
〜心中思ハ〜殊勝ナリ但〜蹠の行踐行
〜佛道ハなれ更〜吾朝〜音〜

三十一

三十一

いせしとあまの善きとねりてく愚癡なる人のか
くのびり裸奉り既奉りなど誓ふとけり然も佛
祖釈迦如来の因位も法の為る身と火の穴に投げ
或の身も千燈と灯り子の釘と打ちひり度あり
今の世に於て利益なき度ありいも苦行とも能く
堪へく法の為る身も唯心の勇猛至誠なる度と
りりり今の子も素来邪正と争へるやどの知
恵なきは裸の行の善度なりとの心得て寒風
能く其苦行と堪へ至孝の化す処至誠勇猛の善
心なりらん其心操と取て其行と学ぶべし和州長

谷寺の堂司何某の法印素の西川の武士なりける佛
縁の至て出家し久し長谷寺ありける隨分の
信者ありて身怒慈忍の沙門なりける且暮本尊觀世音
の尊前小喝仰し我身の出世不出世の度は皆十二面
尊に任じ奉りて常にも口号まねける後南都の
西なる法華寺の者防と成り住り或時郡山の城
至某候の毘獵ふ出づ法華寺ふ来り此某僧と談
話幾刻勿論此僧は富貴高宦の人にも諂ふをり
とて平座して古今の物語りきくれば郡山候の
意ふ愈々あつて在城の日一月ふ兩三度は定めて

此法華寺ふまきと竟日談話ふ及びせり事大
 凡常なるり寛文の初め此法華寺の中僕久
 三郎といふの博奕ふ負りて寺領の納金五兩
 を掠りて其の露もんを怕きて固く此僧と
 殺し我罪を此僧ふ蒙る一日老僧の晨朝ふ起
 て盥嗽せんとりて久三郎後より来りて斧を
 以て腰を撃つる八旬の老僧をれば即時ふ作
 後入りて其時久三郎つる思ふ身中小金
 瘡の後の食膳しつる只繩を以て締殺さん
 へと即ち麻繩と素の出し首ふ繳ひ締殺さんと
 已

小僧の末まで手を取足を取
 繩を解いて溢り殺し事を
 得ず久三郎叱りて追ふ
 寺の香積へ往と見へ失ぬ
 まて溢るとすれり忽ち先の
 雑僧の末まで障けり
 彼は半時斗りひまど入
 りて処ふ門外より衆人の聲
 して郡山候来臨なりと披

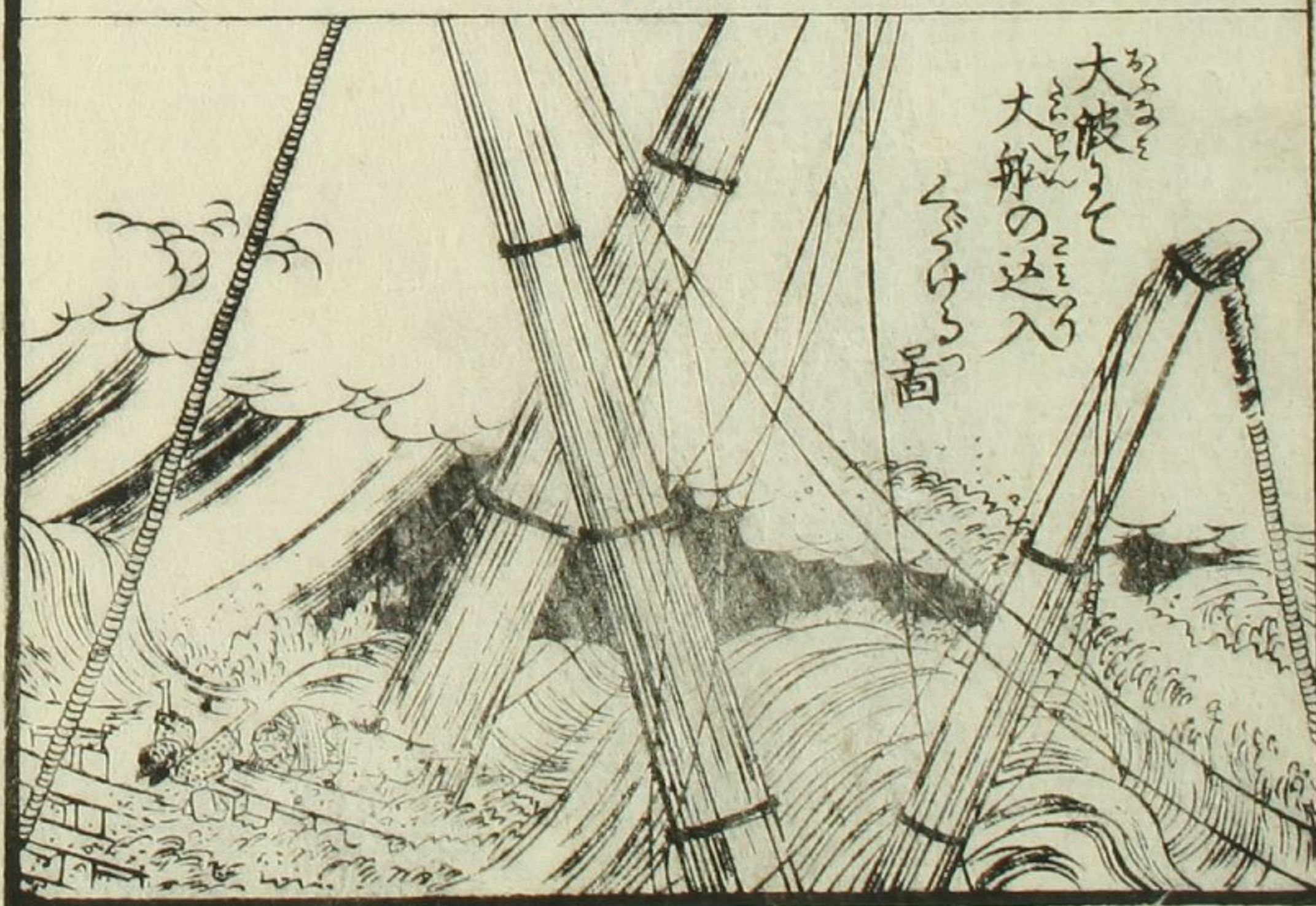


下野久三郎
 金と奪ひて
 老僧と
 宝刀

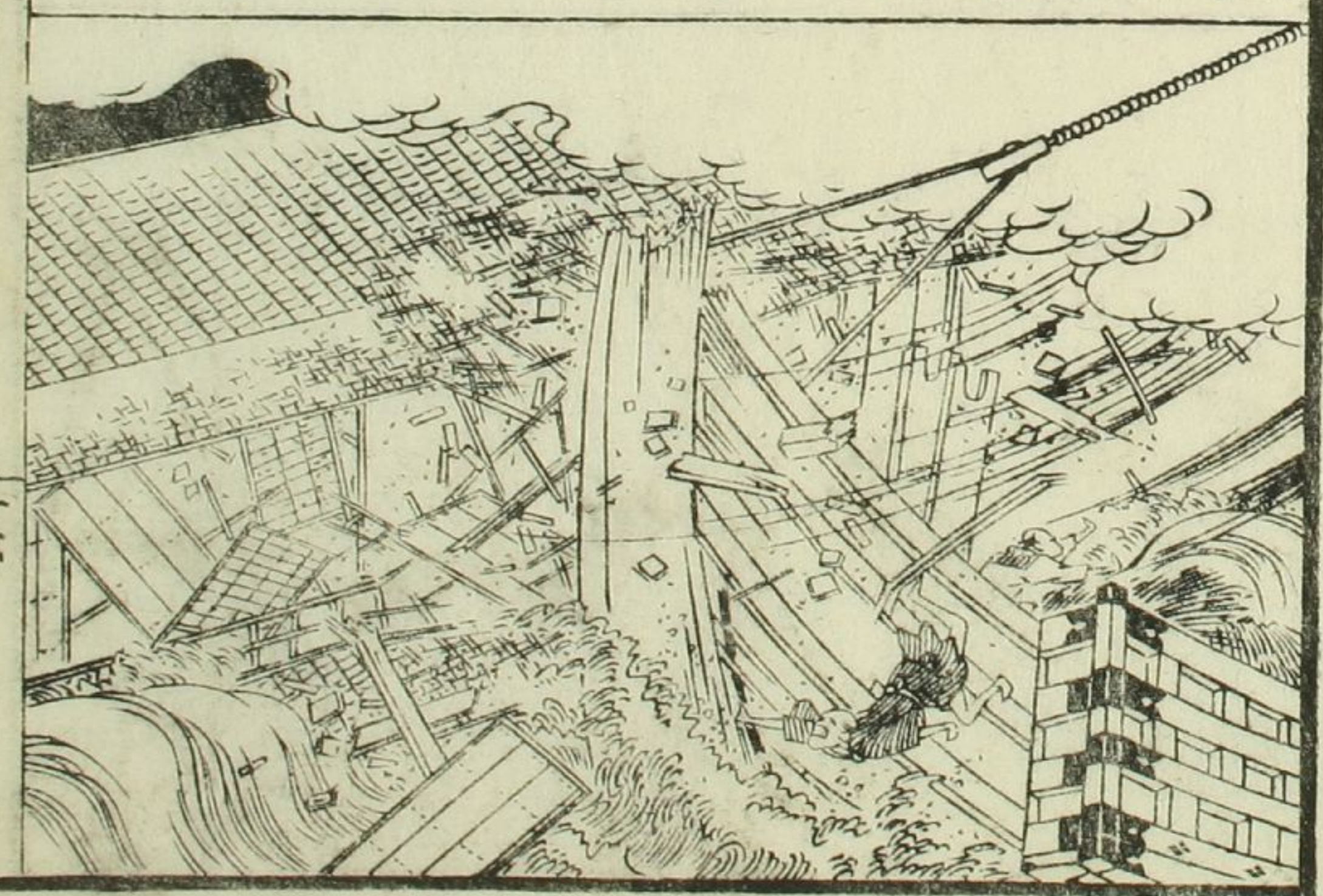
露を聞て久三郎大に忙て狼狽て寺の後園の藪に潜り
と潜り堀を踰り逃り後士等寺中へ入り老僧と索
めり不繩を以て溢らんとて消息を尋ねて腰を撃ち斧
痕ありて血の出る始末なり是れいふ偷盗の入るふ
やと久三郎と尋ねる見れば後園の藪に潜りて
逃り跡ありて郡山候へ入り先獲魂の神菜
と老僧ふりて服せり後士等おび中間農夫等
ふ仰せと久三郎と追しむる国今あて捕へ帰り
諸老僧と郡山候より外科のいび医師ふ命と瘡
治せりいば程なく瘡も瘳り久三郎と郡禁獄して

拷問しけむる上件の類ありのま吉状ふ依てのら南
都ふ於て刑せしむる此老僧は洛東泉涌寺塔中安
樂光院ふ於て其初の院主と旧友のまあて當人老僧
の此始末と具ふ語られしといふ記録のまを是れ
衆ふ示し其外鬼蛇刀枝毒菜呪咀或は怨賊あど
の難と信心の功かふ因て除き道ましと牧奉するふ
連りて既ふ以て先年中文上旬浪速表ふわて
大波なりたる時鉄橋辺に住する街家の人の地震に怕き
まづ妻子と橋除ふ礎と下り居る大船の船頭平日
心易しと船中へ助け来られ至人の跡よりといふ間も

かく沖より鳴動し、惠と
 くる浪あくるおりの大
 船の道頓堀川内へ推上
 られ、民家の二階へ彼船の
 三隅まで擲りなると推破
 せ、乗込らるるまゝ船頭の疾
 く此二階へ下りて助けし
 ろの指揮し、隨ひ母子共
 み二階へ下り、えらふ盃盤
 狼藉あくる酒をどと飲捨



たるまゝして今迄飲居る
 人の送波ふ驚れ、逃いで
 ると見え、家内一人個
 も居ざれば、其まゝ我家へ
 歸り、毎度変わる喜び、さ
 後日小聞け、此家夫婦
 子供との小白髪町、三
 津寺の十一面大士と會ひ、一
 信者あて朝夕参詣言
 度なれ、應報なると聞く



聖天四州國會集下

聖元新語 卷之七
同項肥前國高木郡中村何某又隣村小田嶋
何某といふ兩人醫者東都より帰路の御勢州四日市小
宿に於て大地震の後出火の多し人の損傷怪我人亦數
知れば然るに此兩人中より小難を遁き不思議に助命
ありて無事小帰国しつゝとて要用ありて大坂に在
りて知己と成て委細と聞小常々信念し奉る十一
日大士の加護利益の現然なりと云ふ語り侍る
○又近きある洛東安井市門辺に住る番匠八とて
當年二十四歳なりしが獨身者の放蕩ありて夜行夜旋
の悪刑にや濕疾を病み追々重く成上り送るの力を

かく面良又ハ頭助咽も疲付ば身中小濕毒の巡りて
身体と腦と死せしむるも愈て助るもかく苦
腦を數月と苦みしるが獨身者の久しく外腦に詮方
なく人の咄しを聞て河豚の數日と重ひたりと買めて
之を煮て喰ひ賣て魚毒小中で死しは本懐なりや
覺悟と成て隣家朋友へ暇乞してちと喰ひて翌
日正中ふたり迄も表口を明らるる隣家の人も扱
ひ知八どの心願のどく鱧の為小毒死小及びまつも
のあらん寂惜氣毒かりとて人々の噂して厩然居
りし知八末の時頃眼覚る枕辺と見まば毒血と

吐く見苦しくくらくとてさうく掃除し昨日も
つと鯉のうらみ身中の湿毒と残り吐出し
追く五射壯健ふ成り快然と平愈ふ及び
の中か安井御境内の天堂へ且夕足を歩
尊と年来崇め信心の利益奇特して斯の如
人への賞し然らば毒も信心の徳に依り良
事斯の如く怖るる貴とむる偏に信心忘慢
ちるる如く

尔時佛讚善哉大士為諸有情欲宣此咒我亦

受持汝速說之時觀世音菩薩即說咒曰

時佛の讚り入る善い哉十一面大士諸の情の者
此咒を宣んと欲ふ我もまこと受持つる
と説と宣ふが故の時十一面大士の即り咒と説て曰

唵摩訶迦盧尼迦婆娑訶

說此咒已白佛言若有男女誦此咒一遍十惡
五逆一切罪障皆悉消除諸病苦離諸怖

故小因の五逆小果の无間の名と呼興へく五无间罪と云
 諸冥府小隨る故小死すと生ずるもの間の无がゆへく
 无間地獄とゆへ又彼地獄の有情の苦しことを受る事の
 暫くも間断の无と无間とゆへ其一切の罪障とて悉
 く消滅して諸の病いの苦しことを除く諸の怖畏とゆへ
 も盗難まると雷火大洪水地震逆浪などの諸の怖し
 畏しとおのふその患と除く生死の海と超く涅槃の岸
 小到るとゆへ此涅槃とゆへ梵語よて此翻名ふとま
 くつとまといも名義集の意とて回寂と翻つ圓の常樂
 我淨とて常小我淨と小生まんことを樂しむの字義

あて此四徳法身般若解脫の三徳の圓満成就す
 るの義とて寂といふへ分股交易の大患永く寂滅して
 貪欲邪慳執着愚癡の四流と悉く度して一切の障
 礙を寂滅するゆへ小圓寂といふ畢竟成佛の美名と
 ○彼岸といふ天台の次第禪門小生死と此岸と為し
 涅槃と彼岸と為し煩惱と中流と為す旨と釈し
 く畢竟彼岸といふ涅槃无生の理と証する喻へ
 かりとあめしゆ

若復有人称念十方億那由多諸佛名號不如暫時

至心称念我之名號得福勝彼宿福薄者不聞此
咒及我名何況輒得受持讀誦若能至心誦咒
念我現身獲得飛行自在神通變化如我無矣
若一復人有て十萬億那由多と數限りもたれ諸の佛
の名号と称へ念ト暫時も怠るまなく至心ふ我十一
面大士の名号と念ト称トあべ福德の勝まると得じ
めん彼宿福薄き者として福德と受るまの薄く
衣食ふ乏しく薄き者ハ此咒および我名と聞ざる
ゆへなるまなく何ぞ況んや輒すく此咒と受け持つりの

有く若く能信者至心ふ咒と誦くと我と念トあべ
大悲の身現つて飛行自在神道変化と獲得するを
我如くあてまるとまはるる
復次有人貧窮下賤多受病若愚癡暗鈍不辨
善惡若能誦持此咒称念我名一切所求必定成
就富貴自在無病安樂得智慧才世世無不称意
復次有人有く至て貧窮下賤あつて寒中絶み破き
單衣一重着て寒風小堪がく震ひ居ながら焼栗と賣
てまらるる小腹と養ふのまらるる饑と凌ぎ居るる下賤

貧窮の人も忽ち十一面大士の應護に因て人の助力を
受て芝居具行して尔来打續く柏子より黄白と説
け絶つ十六七年元年ふまはして今限者と成り
京扇屋植木屋某など予が眼前に見る処して大悲
の利生應驗更ふ幾ふべからず常ふ多病ありて年中苦
しみより病まも忽ち信心の徳に仍く健ふ成て長寿
を保り人あり既ふ以て予廿四五歳の頃ハ勞症にて
命に中へりしも又三十前後とも多病ありて二度の食
食毎ふ珍味魚肉の美膳に向ふとつども忽ち咽ふ
かり食物も味ひなく石食勝あり瘦衰へりし人も人

の御ちふ因て天尊毎二の信心の徳に依り當年八九
乃云羽とかなれども食食味く三十ヶ年以來菜餌鍼灸
と施はるとは竟なく一身至つて壯健ありて眼明ふ耳聰
旅路一日ふ十里づの路程と歩むふ州皆と履ばく附
草履ふて杖と用ひず往來と易し上京より下坂も
例も東街道と歩行ありて乗船と好まば上下とも其
日着到して不惑前後のどく闇夜山路も迷ひなく時
称号と念に忽ち黒闇の夜中十二面菩薩の尊容と
眼前ふ舞して自由と得ると毎般水火の難も遍く
既ふ危意の時尊容現りて出く救ひと得る竟數代

知らば是も多念の奇特
 利益ありと仰ぐらり
 難く身ふ染ぐと徹し
 りりかき覚へて食するの
 間も路次と歩むの間も十
 一面大士の真言咒まことの普
 門品と暗誦して止む須臾
 も怠るまなく予が
 如き暗鈍愚知を
 がくも書冊著述の



勿善惡邪正の理談ふ於て取後亦へてわめりゆり時
 忽ち一心ふ大士と信念すればなりぬ面白れ無向善惡の
 変新を得るまあり免しも角あも毎二信心の利益と明
 らと怠慢なく恭拜信念ふ及ぶ若くは此咒と誦し
 持り大慈大悲十一面大士の名と称するま自在在病あて
 安樂なり位高く官貴ささと貴しとい家蔵田地山林の
 家督有て黄白錢衣裳食物十分なりと富とい人
 又不学文育人も信心堅固の徳ふよつて忽ち知恵弁
 才も調ひ世ふ出づ用ひられ教まりるも亦世ふ任りひ
 もなり人ふ用ひらるゝといままなりと富とい人
 信心不信

心の甲乙小寄う知かり

乃至證得無上菩提若有女人願捨女身誦持此
咒轉女成男所生之處常在佛前蓮華化生若在
人間得為輪王恒轉法輪畢竟涅槃

無上といふ無上道佛法の大道といふ菩提といふの梵語
て此方々の覺と翻す是の法の時法なり是は法門无
量なりて其覺照の徳改め変ずる竟无といふ又菩薩
といふの天竺の畧名て是の菩薩摩訶薩地と

つども唐土人の畧と好むの羅什三藏とれと畧して菩
薩と名く是と此方小翻おんは大道心成衆生といふ此意
の大道心といふの菩薩の自証の徳といふ意の實は佛法の
大道と求むるの心と發す人といふ意を成衆生といふ衆
生と成就するといふ意を菩薩一切の衆生と利益し
り入他と化益するの徳小附く名けり又女身と捨ん
まの願を偏小此咒と他念なく誦持し信心堅固から
ハ女と轉じて男となすの變りたる非ば又男子の變じて
女と成りしとも和漢三才圖會五雜俎及び其外ふり
夏多し又形の變らば意も邪行も男と成るを幾人

も見らぬなり婦人の身こそ業の男子の取行ふて
妻と娶りて夫婦と世間お披露し世帯するとの京
撰ふ多し毎般見らぬとこれのく姓名家号などを知
る処なき記し及むば経意のどく此呪と多事誦持
し〜〜忘りかくる罪障深と女身と捨て男子お性変
更調へらるる非に信心堅固の人生〜知の處常お佛
前蓮華化生の知お在り若し人間お在り輪王とある
く恒お法輪と轉して恒般お究り意ら法輪といふ日
輪お轉ると夜お休むといふ更られども法徳の轉る事益
夜と捨す止とれあらと法輪といふ

歎達佛三匝作禮而云

時お十二面薩埵の此呪と説己つ〜一切の大衆歡び喜ん
讚歎し佛座を巡る更三匝おり〜禮拜を作して去りし

十二面觀世音菩薩隨願即得陀羅尼經 大尾

信心渴仰の余り予が不敏不学と者〜和訓して同輩
文盲野夫婦女子の為小再図を加へて此經二部の和訓して
無二信者のくめよと筆と採らといふ

洛東 真脱庵春屋樵翁居士敘述

洛東 春屋織月齋謀翁著

浪華 松川羊山安信晉禹

安政二年乙卯仲冬 發兌

京堀川通二条下九町

越後屋治兵齋

書肆

大坂心齋橋御本町

河内屋藤兵衛

和漢
西洋

書籍賣捌處

大坂心齋橋博勞町角

群玉堂河内屋
岡田茂兵衛

